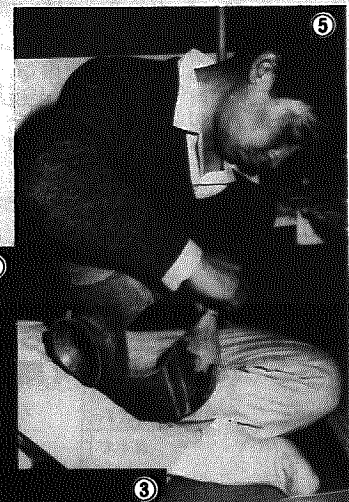
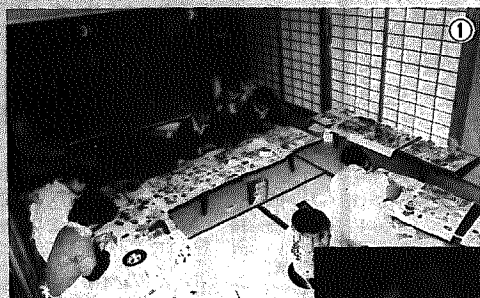
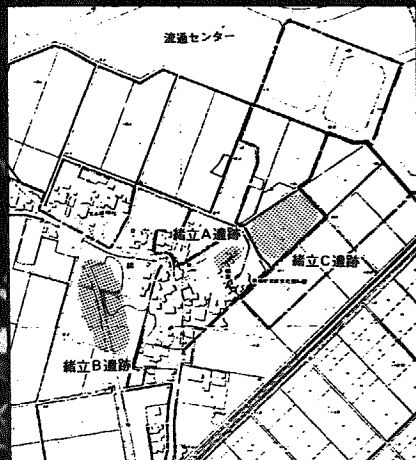


緒立C遺跡を発掘

古代の住居跡を発見、土器片が数多く出土

発掘作業
調査対象は約1000平方メートルで、そのうち溝のようにして481平方メートルをパワーシャベルと人力で掘り起こしました。深さは浅い所で50センチ、深い所で2メートルです。写真奥は流通センター。



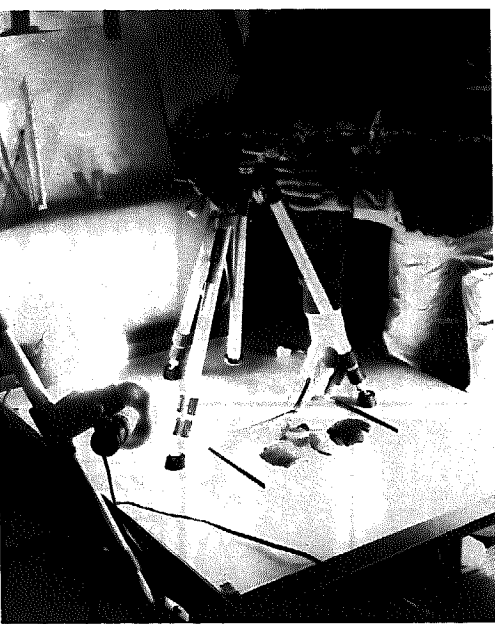
（復元作業）

今回の調査で発掘された土器片などの遺物の復元作業が、十一月十四日まで緒立八幡宮社務所（写真①）で行われました。

作業の手順は遺物に付着している土砂を洗い落とし

十二月には調査研究をする予定で、来年三月までに詳しい報告書がまとまります。

その後、全遺物を発掘地点ごとに分類し②、調査番号を記入します③。遺物は接着剤やテープで接合していきます④⑤。復元された土器や、残った土器片などは実測、写真撮影が行われます。



写真撮影・発掘された土器片などは写真に撮り整理されます

今回調査の対象となった緒立C遺跡は緒立八幡宮の裏手、標高0メートル前後の低地で、現在は畑や水田になっています。付近には緒立A遺跡（八幡宮境内）や緒立B遺跡（緒立集落南側の県道わき）があり、既に発掘調査をしています。A遺跡（昭和五十六年発掘）では古墳時代（約一千五百年前）の有力者の墓と考えられる古墳が発見されました。B遺跡（昭和五十三年（五十五年発掘）では古墳時代の人々の住まいである竪穴住居跡をはじめ、縄文時代（約二千五百年前）、古墳時代、平安時代（約一千年前）の日常生活に使われていた土器がたくさん発見されています。特に縄文時代末期から弥生時代初期の土器は県内だけでなく、全国的にもまれなもので注目を集めています。

現在、緒立集落から新潟流通センターまでの区域で、地権者が土地区画整理事業を計画しています。そのため、緒立C遺跡の範囲や地層の深さを明らかにする必要があり、町教育委員会

が十一月四日から十四日まで十一日間、発掘調査を行いました。その結果、古墳時代の竪穴住居跡の掘り込みやゴミ捨ての穴などが発見され、土器類が多く出土しました。出土品はほぼ二つの時代に区分されます。一つは古墳時代の素焼きの土器（黄褐色で軟らかい）で、米などを煮炊きしたかめや、優勝カップの形をした祭りの用具である高坏や器台と呼ばれるもの。もう一つは平安時代のもので、窯を焼いた土師器（茶色で軟らかい）です。須恵器は皿や杯、かめとして、土師器はなべやかめに使われたものです。このほかに網の重りである土錘もありました。C遺跡は、A遺跡、B遺跡と並んで、昔は砂丘でありここで一つの村が営まれていたと考えられます。※坏：盛りつけ用の器

今後、緒立C遺跡の取り扱いは教育委員会と協議して、緒立土地区画整理組合（設立される予定）で協議していく考えです。

教育委員会